

平成30年度大阪府立吹田東高等学校

第1回学校運営協議会

日時：平成30年6月22日（金）

場所：大阪府立吹田東高等学校 校長室

・委員	柏渕 眞理子	東山田青少年対策委員会委員長
	藤浦 雅彦	吹田東高等学校 P T A会長
	本岡 直樹	吹田東高等学校 後援会会長
校長	佐々木 啓	吹田東高等学校 校長
事務局	井川 紀代子	吹田東高等学校 教頭
	芝野 雅人	吹田東高等学校 事務長
	村上 明弘	吹田東高等学校 首席
	山室 裕	吹田東高等学校 首席
	有田 圭吾	吹田東高等学校 教諭

【開会のあいさつ】 「大阪府立吹田東高等学校 校長 佐々木 啓」

【実施要項等の確認】 （資料①参照）

- ・3回の学校運営協議会で承認を得て学校方針を決めていく。

【会長選出】

会長 浦田 太（千里丘中学校校長）
副会長 本岡 直樹（吹田東高校後援会会長）

【議 事】

◆報告事項

(1) 平成29年度学校経営計画及び学校評価について （資料②参照）

本校佐々木校長より説明

- ・全体として概ね目標は達成できたと考えている。
- ・授業アンケートについて、1回目より2回目の数値が上がり、全体の平均値も昨年より上がっている。
- ・大学の現役合格者が130名に達成した。
- ・授業以外の学習時間が1時間以上の生徒が3年生は85%に達している。
- ・教員の講習について高い評価を受けている。
- ・図書の出冊数は昨年よりかなり増えている。
- ・遅刻数については昨年より少し増えているが、かなり少ない数である。
今年度も遅刻を減らす取り組みを行っていくが、体調不良や精神的にしんどい生徒に配慮しながら進めていく。
- ・文化祭について地域の方が昨年より多くの参加してくれた。

委員：「シラバスは役立っている」の固定的回答は54.3%と少し低いですが、以前と比べると上がっている。

委員：授業アンケートの評価が昨年より上がっているのは改善されていることが解る。

校長：ICT 機器の有効的な活用やグループ学習など教員の様々な工夫により興味・関心が湧き、生徒の授業参加により知識・技能が高まっていると思われる。

(2) 進路状況について (資料③参照)

本校佐々木校長より説明

- ・昨年より浪人の数が増えた。
- ・文科省の方針が変わり、大学の合格者数が減ったため、多くの高校で影響が出た。そういった中で本校は多くの合格者が出た。
- ・難関校への入学者が増えている。

委員：学校としての目標はあるか

事務局：難関私学へ合格できる力をつけたい。

委員：そのような進路目標については来年度以降の高校入試を受験する中学生も関心があると思う。

事務局：本校の特色である、厳しいので真面目に勉強ができ力がつくということを中学生にイメージを持ってほしい。

委員：吹田東は学習指導がしっかりしているということで受験を考えた。

委員：地域では厳しいけれど真面目に勉強が出来るというイメージを持っている。

(3) 新入生アンケート結果について (資料④参照)

本校村上首席より説明

- ・2年前から(43期生)と質問項目を替えている。それ以前と少し違うので比較できない項目もある。
- ・全体的には昨年とほぼ同じ傾向。
- ・「吹田東高校が第1希望」と答えている生徒は昨年より多い。
- ・受験する上で重視した理由は「成績」が一番多いが、「校風・雰囲気」と答えている生徒も多い。
- ・どのような学校と聞いていたかというのは「厳しい」「まじめ」「落ち着いている」「進学に力を入れている」などが多く、またそのような校風・雰囲気を望んで入学している生徒が多いと思われる。
- ・得意科目では例年と同じで社会が多いが、数学と答えている生徒は例年より増えている。
- ・不得意科目は、英語が少し増え、数学は大幅に減っている。
- ・希望進路は4年制大学が一番多い。

委員：総合的に見ると理系が多いのか。

事務局：全体としては文系の方が多いと思われる。例年と比べると少し理系が多いかも。

委員：英語が不得意と答えている生徒が多いのは気になるが、例年とは少し違った傾向では。

委員：第一希望が吹田東高校の生徒が多く、充実した高校生活を期待している生徒が多いのはいいことだと思う。

(4) 平成31年度教科書選定 (資料⑤参照)

本校山室首席より説明

- ・現在選定中で「平成30年度使用教科書選定一覧表」に記載されている理由により、最も適当であると認めて選定している。
- ・観点の内容と学習は「平成30年度使用教科用図書選定理由書」に記載されている通り。
- ・選定経過については、6月8日に選定委員会を発足し、6月22日に各教科の審議状況を報告、6月29日に最終審議をまとめ、7月9日に最終決定と報告書作成し、7月中旬に委員会に報告。
- ・調査研究機関の構成は、別紙(資料④)とおおり。

委員：教科書選定をしっかりと行うことが生徒や保護者の評価にもつながっていると思う。

◆協議事項 『平成30年度 学校経営について』 (資料⑥)

本校佐々木校長より説明

〈昨年からの変更点〉

- ・年間遅刻数を1人平均1回(昨年1.2回)に変更した。
- ・社会で通用する人材を育成するために、様々なことに疑問を持って解決する力を身につけさせる。
- ・働き方改革を推進していく。
- ・校内組織の見直しを進める。
- ・長時間勤務の減少。

委員：「様々なことに疑問を持って解決する力を身につけさせる」ということは、なぜ勉強するのか将来何をを目指すのかというようなことも含めて大事な事だと思う。

委員：これについては、会社でも新入社員にまず身につけさせたい力で、その手法がOJTである。学校でも何かシミュレーション的なもので経験させてあげられる取り組みがあればいいと思う。

委員：英語が苦手な生徒が増えているということで、オーストラリアの語学研修の取り組み等が将来留学したいとか英語を使った仕事がしたいというような興味付けになっていると思う。

事務局：今年度は夏休み(8月)に校内語学研修を午前と午後に分けて3日間実施する。

38名の参加があり興味付けになればと思っている。

業者に依頼しているので英語科教員の負担軽減になっている。

委員：この取り組みは働き方改革にも関わる。

◆事務連絡

次回 11月頃 (予定)